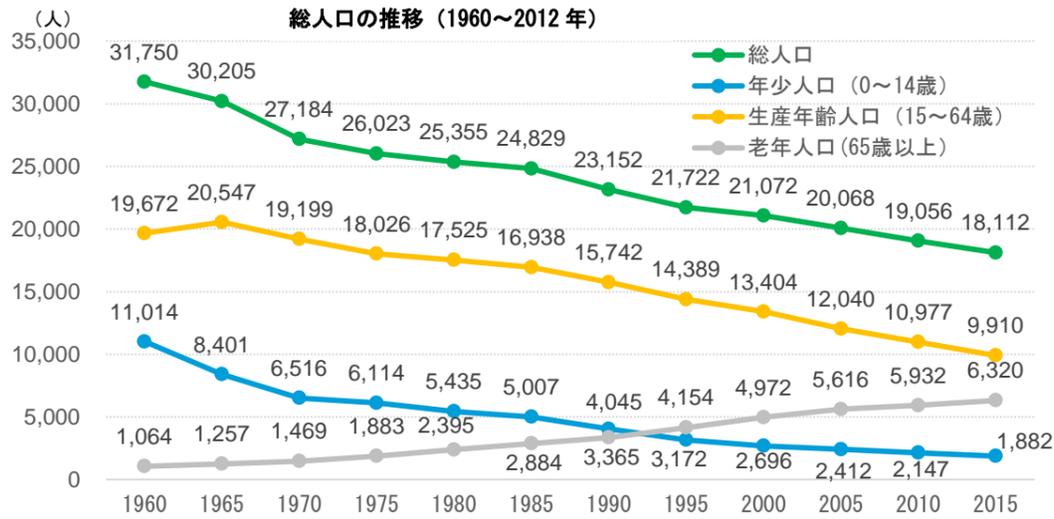


砂川市人口ビジョン【概要版】

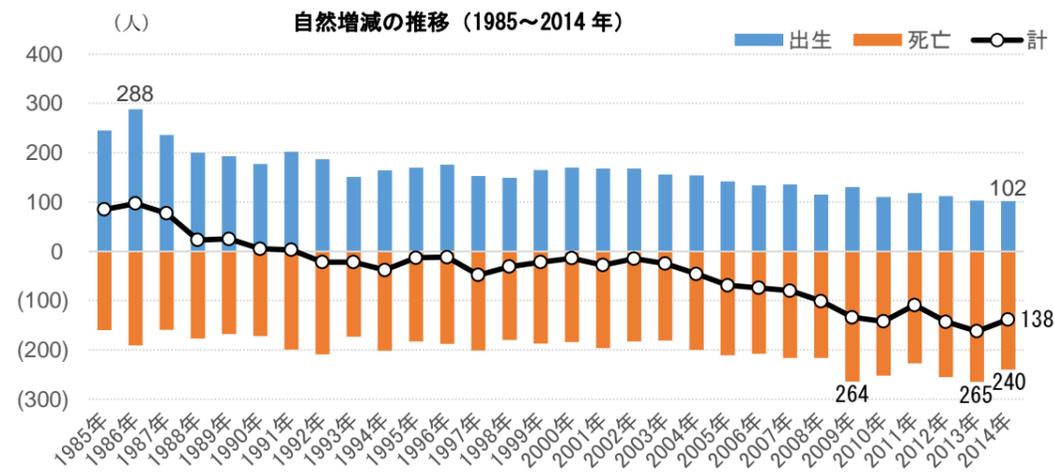
総人口：人口減少・少子高齢化の進行

- ・総人口は1960年以降減少が続く
- ・年少人口と生産年齢人口は減少傾向にある一方、老年人口は増加傾向にあり、1990年代前半に年少人口と老年人口が逆転
- ・2015年の総人口は、18,112人



自然動態：死亡が出生を上回る自然減

- ・1992年より死亡が出生を上回る自然減に転換し、以降自然減が継続
- ・合計特殊出生率は近年低下傾向にあり、2008～2012年で1.30

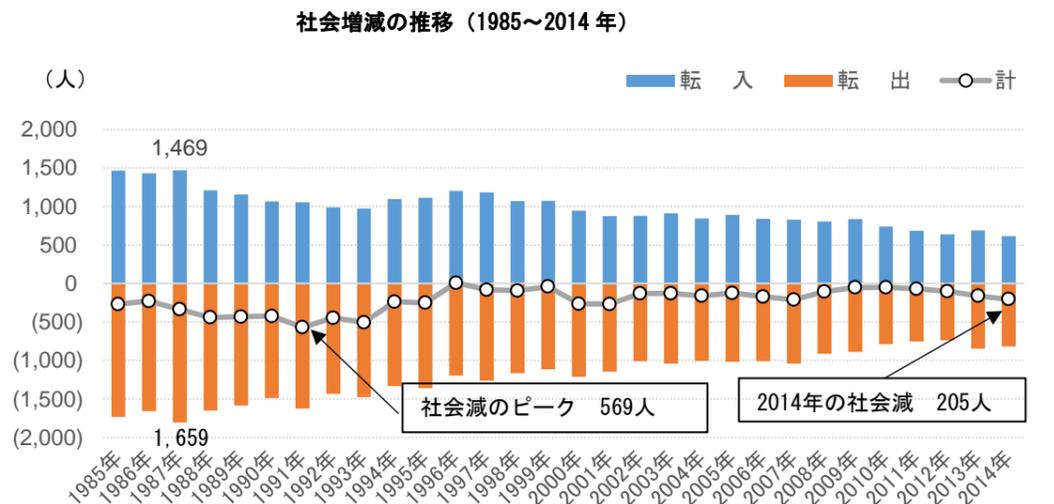


合計特殊出生率の推移 (1983～2012年)

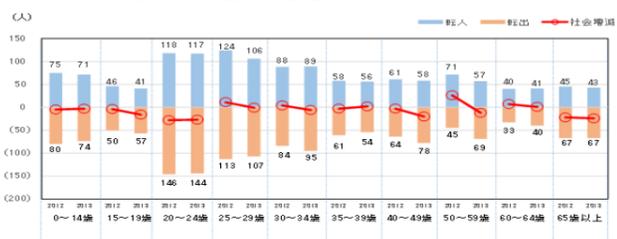


社会動態：転出が転入を上回る社会減

- ・転出が転入を上回る転出超過が継続
- ・特に進学や就職に伴う20～24歳での転出超過や65歳以上の高齢者の転出超過が大きい



年齢別社会増減の推移 (2012、2013年)



中長期的展望 (2015～2060年)

現在の人口動向が2060年まで継続した場合、砂川市の総人口は8,396人まで減少する見込み (社人研推計準拠)

【人口減少が地域に与える影響として懸念されること】

- ・労働力人口減、消費市場の縮小を通じた産業基盤の弱体化
- ・雇用環境や住環境の悪化
- ・高齢化の進行に伴う社会保障関連支出の増加

人口減少の進行に、少子化、若者・子育て世代の流出が加わることで更なる人口減少を招く「縮小スパイラル」に陥るリスク

人口減少への対応に向けた目指すべき将来の方向

- ① 安定した雇用の場を創出し、若者を中心とする人口流出に歯止めをかける
- ② 新しい人の流れをつくり、交流人口の拡大を図る
- ③ 結婚し、子どもを産み、育てられる環境づくりを進める
- ④ 高齢者が安心して暮らせるまちづくりに取り組む

目標

- ① 出生率を向上させる
合計特殊出生率：1.30 (現在) → 1.80 (2030年) → 2.07 (2040年)
- ② 転出超過の抑制を図る

→ 2060年に人口10,000人を維持

